宮城民医連
東北関東大震災

災害対策本部ニュース

ニュース =第10号=
発行日 2011年3月19日
発行 宮城民医連

避難所まわり

避難所まわりに医療スタッフ大奮闘！

避難者のお話をきく高橋啓太医師（左）と原田真吾医師（多賀城中学校にて）

3 月 19 日午前、沖縄民医連医師原国政裕、看護師久保田和樹、事務新垣潔、香川民医連医師原田真吾・高橋啓太、看護師吉原由美子、神奈川民医連医師東島成史、長野民医連医師原田侑典、鳥取民医連医師木村章彦、東京民医連看護師飯塚康野、山梨民医連助産師望月桂子、千葉民医連事務守田達夫さんは、多賀城中学校（避難者 420 人）、多賀城体育館（同 50 人）を訪問しました。

助産師の望月桂子さんは、妊娠５ヵ月と６ヶ月の妊婦さん２人を診ましたが、腰痛と浮腫の症状が見られたとのこと、腰痛は腰に巻いたサポーターがきつすぎていた。その他、日常生活全般のアドバイスをしていました。高橋啓太医師からは、「不衛生からの眼疾患、ストレスや水分摂取不足からの便秘も目立った」との感想。

知的障害者の施設で、インフルエンザ集団発生の可能性！

塩釜市の杉の入小学校を訪問したチームでは、教室にいる知的障害者（13～14 人対象）を診察、始め症状ありの人は受診中とのことだったが、チェックを開始したら高熱者が相次ぐ（38.7～39.3 度）。持参したインフルエンザ用検査キットで検査した結果、インフルエンザ A 陽性の人が 3 人、タミフル、PL、解熱剤処方をしました。集団発生の可能性があり、救急受診を勧めました。知的障害ということで訴えることもできず、付添スタッフも体温計もなかった。避難所の感染対策のアドバイスとともに、医療支援に毎日入ってあげる必要性があるとのことだった。

この日、全国からの医師応援は 44 人、トリアージに 12 人、避難所まわりに 16 人、院所応援などに 16 人が参加しました。

各自治体避難所は集約の方向

第２回緊急地域連絡会

行政、地域の病院などが参加して、第 2 回緊急地域連絡会が１９日午後 2 時から坂病院災害対策本部で開催されました。行政の被害や取り組み状況、地域病院・医院の開院状況や被害の状況などが報告されました。透析関係では大学病院、社会保険病院で、透析場所 53 か所のうち 26 か所が復帰、塩釜での薬品不足は医師会が中心になってまとめる。七ヶ浜町では死者 42 名、行方不明者 50 名位とのこと。各市町村の避難所については、地域にひろがっている避難所を集約するようにしているとの報告がありました。どの医療機関もインフラが復旧しないで困っている状況と、ガソリン不足は、スタッフが出勤できないなどの深刻な問題を生んでいることなどが報告されました。

事業所の状況

福祉会

陥没した宮城野の里玄関付近

宮城野の里では、ディサービスなどの利用者さんのうち、自宅に帰れない方を 16 人預かっている。避難所からは認知症の方の対応の仕方などの問い合わせがある。宮城野の里の会議室を避難所として受け入れたいと行政に話したら大変感謝された。支援物資は労福連などから 7 便が届けられ、地域などにも配布している。建物関係では宮城野の里玄関が陥没（左写真）したが、他の施設には大きな被害はなし。乳銀杏保育園などは 3 月 14 日から開園している。（3 月 19 日午後 2 時現在）

全日本民医連から坂病院に
電動バイク6台が届きました

全国支援 3月19日午後5時現在 累計513人